

感染者や医療従事者への差別をしないために

松波めぐみ（龍谷大学非常勤講師／（公財）世界人権問題研究センター登録研究員）



新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの人が不安とストレスを感じる中で起こった大変残念な現象が、感染者等への差別や誹謗中傷です。どうしてこんなことが起こるのでしょうか。

感染者への誹謗中傷と、底にある不安

2020年2月頃から、海外で猛威を振るう新型コロナウイルスが日々報道されるようになり、市民は大きな不安に包まれました。各地で感染者が出た際、感染源になった人の行動（例えば卒業旅行で海外に行った、帰国後どこに行ったか等）が細かく報じられたことにより、感染した人を責めるような雰囲気が生まれてしまいました。感染者の行動が公表されたのは、あくまでも近くで接触した人に注意を促すためでしたが、実際はそれを超えて「感染者はどこの誰か」を知りたがる人が増え、インターネット上でも誹謗中傷が起きました。ほとんどの市民が「自分は絶対に感染したくない」と思い、マスクや手洗い等の予防に取り組むようになりました。それ自体は大切な

ことです。しかし、「もし感染したら」という強い不安から、感染した人やその家族を徹底的に遠ざけ、「感染しているかも」と思われる医療従事者も拒絶するようになっていきます。不安や恐れは、相手の立場を想像するゆとりを奪っていきました。

感染者や医療従事者への差別は許されない

望んで病気になる人はいないし、「どんなに気をつけていても、感染することがあり得る」という事実をまず理解する必要があります。感染者への差別は、ただでさえ病気に闘っている人を傷つけ、生きづらくします。心ない噂に苦しんだり、職場復帰を断念した人もいます。感染した人が安心して療養し、元の生活に戻れるように気遣い、プライバシーを守りましょう。医療従事者は、まさに必要不可欠な仕事をしている人たちです。感染予防の知識を持って仕事や生活をしているのに、「自分たちにうつすかもしれない」との感情から、医療従事者やその家族を差別することは、許されません。

ウイルスを避ける行動と、人への差別は分けられる

感染者や医療従事者への差別が起こっているのは、それが一見「感染予防のため」と誤解するからではないかと思えます。ウイルスは目に見えません。ウイルスを避けるためには、感染者（その可能性がある人）を遠ざけて「うつされない」ようにするのが一番だ、と思いやすいでしょう。

新型コロナウイルスを避けるためには、「目・鼻・口を触る前に手を洗う」「会話する時はマスクをする」等の具体的予防策が知られてきました。こうしたウイルスを避ける行動は、漠然と「人」にレッテルを貼って（「この人は病院勤務だ」「この人の学校で感染者が出た」等の理由で）差別することと、はっきり分けることができます。正確な知識をもって、「人」を差別せずに感染予防の行動をとっていくことが大切なのです。そして、もし「誰々はコロナらしい」等の噂を耳にしたら、「そんなことを言うのはやめよう」と言って、差別を断ち切っていきましょう。

新型コロナウイルス感染症に関する不当な差別や偏見、いじめなどを受けた場合の相談窓口

法務省の人権相談窓口

みんなの人権110番	全国共通ダイヤル	0570-003-110	（平日午前8時30分から午後5時15分まで）
子どもの人権110番		0120-007-110	（平日午前8時30分から午後5時15分まで）
外国語人権相談ダイヤル		0570-090-911	（平日午前9時00分から午後5時00分まで）

京都市では、面談による人権相談（人権擁護委員による特設人権相談）を実施しています。

詳細は以下のURLを御覧ください。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000234985.html>



プロフィール
専攻は人権教育と障害学。
2010年から京都市南区で、地域で暮らす重度障害者の介助に携わりながら、非常勤講師、及び障害者差別解消法等について研修を行っています。